

Nomura Investment Forum 2018

日本語資料

HORIBA, Ltd.
December 7, 2018

説明内容

- 2018年12月期 1-9月実績
- 2018年12月期 通期 業績予想
- セグメント別詳細説明
- 株主還元
- その他トピックス
- 財務データ
- 会社概要紹介

※本プレゼンテーションにおける2015年の実績は、2016年に変更した収益認識基準に遡及適用後の値を記載しております。

< 免責事項 >

本プレゼンテーション資料には、株式会社堀場製作所の業績、戦略、事業計画などに関する将来的予測を示す記述および資料が記載されております。これらの将来的予測に関する記述および資料は過去の事実ではなく、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予測です。また経済動向、他社との競争状況、為替レートなどの潜在的リスクや不確実な要因も含まれています。その為、実際の業績、事業展開または財務状況は今後の経済動向、業界における競争、市場の需要、為替レート、その他の経済・社会・政治情勢などの様々な要因により、記述されている将来予測とは大きく異なる結果となる可能性あることをご承知おきください。

説明内容

- 2018年12月期 1-9月実績
- 2018年12月期 通期 業績予想
- セグメント別詳細説明
- 株主還元
- その他トピックス
 - 財務データ
 - 会社概要紹介

2018年の振り返り

外部環境

- ◆ 世界的な貿易摩擦
- ◆ 米国の継続的な利上げによる新興国通貨安
- ◆ 半導体需要活況も、設備投資は一時的な落ち着き
- ◆ 自動車の電動化、排ガス規制の強化

内部状況

- ◆ 北米拠点強化(半導体・科学)
- ◆ 阿蘇工場拡張後の本格稼働
- ◆ 次世代自動車技術への積極投資

2018年12月期 1-9月実績

(単位:億円)

第3四半期累計 過去最高の売上高と利益を更新

	2017年	2018年	対前年同期増減	
	1-9月実績	1-9月実績	金額	率
★: 過去最高				
売上高	1,322	★ 1,460	+137	+10%
営業利益	146	★ 178	+32	+22%
営業利益率	11.0%	12.2%	+1.2p	—
経常利益	143	★ 175	+31	+22%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	107	★ 134	+26	+25%
為替 レート	USDドル	111.89	109.60	▲2.29
	ユーロ	124.58	130.87	+6.29

2018年12月期 1-9月実績 [セグメント別]

(単位:億円)

★: 過去最高

		2017年	2018年	対前年同期増減	
		1-9月 実績	1-9月 実績	金額	率
売上高	自動車	453	★ 483	+29	+7%
	環境・プロセス	120	★ 134	+14	+12%
	医用	185	192	+7	+4%
	半導体	385	★ 454	+68	+18%
	科学	177	★ 195	+17	+10%
	合計	1,322	★ 1,460	+137	+10%
営業利益	自動車	22	17	▲ 5	▲24%
	環境・プロセス	4	11	+7	+180%
	医用	12	13	+0	+6%
	半導体	111	★ 140	+28	+26%
	科学	▲ 4	▲ 4	+0	-
	合計	146	★ 178	+32	+22%

<自動車>

排ガスビジネス、ECT^{※1}ビジネスで売上増
MCT^{※2}ビジネスにおいて買収費用などが発生

※1 Engineering Consultancy & Testing(自動車開発全般に関するエンジニアリング・試験)
※2 Mechatronics

<環境・プロセス>

アジアでの水質計測装置、大気汚染監視用分析装置の販売増
米州ではプロセス計測設備事業が好調

<医用>

アジアでの血球計数装置の販売増
ユーロ高円安による売上高の円換算額増加

<半導体>

半導体メーカーの高水準な投資を背景に増収増益

<科学>

企業の研究開発用分析装置が販売増
米州での拠点強化に伴う費用などが発生

受注の状況

(単位:億円)

半導体スローダウンも、自動車の好調により受注残が1,000億円を超える

	受 注					受 注 残		
	2017		2018			2017		2018
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	3Q末	4Q末	3Q末
自動車	222	230	188	229	220	627	578	733
環境・プロセス	50	49	43	47	48	55	51	56
医用	60	68	72	60	62	39	41	44
半導体	131	177	190	124	110	76	107	78
科学	75	85	65	59	76	99	101	107
合計	540	611	560	522	517	898	879	1,019

説明内容

- 2018年12月期 1-9月実績
- **2018年12月期 通期 業績予想**
- セグメント別詳細説明
- 株主還元
- その他トピックス
 - 財務データ
 - 会社概要紹介

2018年市場環境の想定

自動車		日本・アジアを中心とした排ガス規制強化や、電動化・自動運転技術開発の加速により、自動車関連メーカーの投資意欲旺盛
環境		新興国での環境規制強化による需要増 原油価格上昇による石油産業の投資回復
医用		国内：開業医市場の需要は堅調 海外：新興国では血液検査需要拡大
半導体		半導体デバイスの中長期的視点での需要は底堅く、投資回復に期待
科学		企業の研究開発投資は旺盛 二次電池向けの新素材研究加速

2018年12月期 通期業績予想

(単位:億円)

自動車事業の投資増および半導体の市場動向を鑑み、売上高・利益予想を下方修正
配当予想に変更なし

	2017年	2018年				
	実績	前回予想 (8/3時点)	今回予想 (11/9時点)	VS 前年	VS 前回予想	
★: 過去最高						
売上高	1,953	2,120	★ 2,070	+116	▲ 50	
営業利益	268	310	★ 275	+6	▲ 35	
営業利益率	13.7%	14.6%	13.3%	▲ 0.4p	▲ 1.3p	
経常利益	266	304	★ 269	+2	▲ 35	
親会社株主に帰属する 当期純利益	162	215	★ 200	+37	▲ 15	
為替 レート	USDドル	112.16	110.00	110.00	▲2.16	—
	ユーロ	126.70	130.00	130.00	+3.30	—

2018年12月期 通期業績予想 [セグメント別]

(単位:億円)

		2017年	2018年通期			
★: 過去最高		実績	前回予想 (8/3時点)	今回予想 (11/9時点)	VS 前年	VS 前回予想
売上高	自動車	733	790	★ 780	+46	▲ 10
	環境・プロセス	174	190	★ 190	+15	-
	医用	251	260	260	+8	-
	半導体	533	600	★ 560	+26	▲ 40
	科学	261	280	★ 280	+18	-
	合計	1,953	2,120	★ 2,070	+116	▲ 50
営業利益	自動車	76	80	65	▲ 11	▲ 15
	環境・プロセス	10	14	14	+3	-
	医用	19	20	20	+0	-
	半導体	156	190	★ 170	+13	▲ 20
	科学	4	6	6	+1	-
	合計	268	310	★ 275	+6	▲ 35

<自動車>

ECTビジネスでの受注動向を勘案し、
売上高を下方修正
米国での一時費用、FuelCon社(独)買収費用の
発生、開発力強化に向けた投資の増加
などから、営業利益を下方修正

<半導体>

直近の受注動向を勘案し、
通期予想を下方修正

<環境・プロセス、医用、科学>

通期予想の修正なし

**全社では昨年実績を上回り、
過去最高を更新する見通し**

説明内容

- 2018年12月期 1-9月実績
- 2018年12月期 通期 業績予想
- **セグメント別詳細説明**
- 株主還元
- その他トピックス
 - 財務データ
 - 会社概要紹介

2018年1-9月実績 / 通期予想

(単位:億円)

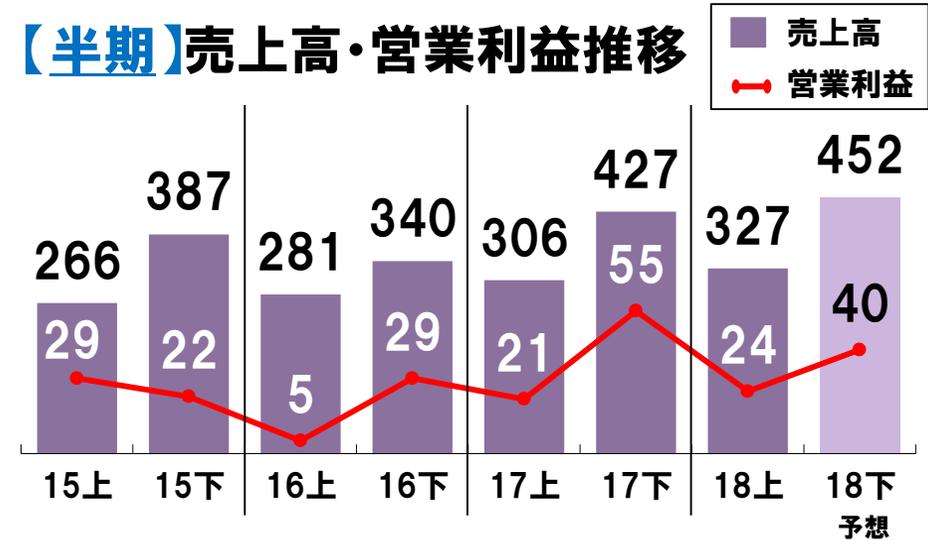
2018年1-9月実績

- + 排ガス** 欧州では新規制導入後も需要は堅調
中国・インドでは新規制導入に向けて需要増
- + MCT^{※1}** 米国での一時費用、FuelCon社(独)買収費用の発生
- + ECT^{※2}** 次世代自動車技術に関するビジネス拡大

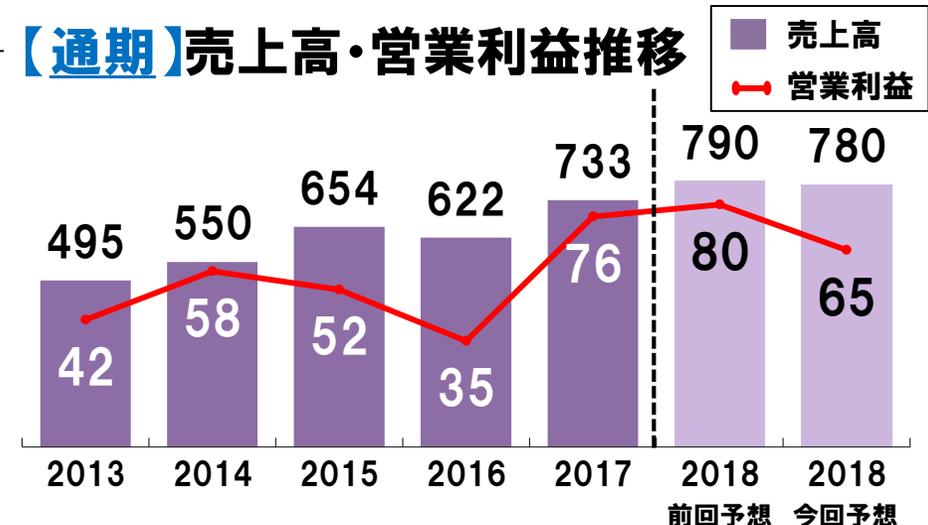
※1 Mechatronics
(自動車計測機器)

※2 Engineering Consultancy & Testing
(自動車開発全般に関するエンジニアリング・試験)

【半期】売上高・営業利益推移



【通期】売上高・営業利益推移



2018年通期予想

- + 排ガス** 中国・インドでの需要増
- + MCT** 欧州・アジア向け受注残の確実なデリバリー
- + ECT** 積極的な投資で更なる成長加速

排ガス規制強化に対する対応

次世代排ガス規制の導入状況

HORIBA BIWAKO E-HARBORでは過去最高水準の生産量を達成



➤ 排ガスビジネス売上高



➤ 排ガス規制動向

規制	EU	日本
WLTP※1	2017年9月	2018年10月
RDE規制※2		2022年(予定)

中国・インド:2020年新規制導入予定(ユ-ロ6同等)

※1 Worldwide harmonized Light vehicles Test Procedure
(国連における乗用車等の国際調和排ガス・燃費試験法)

※2 Real Driving Emissions(実路排ガス規制)

HORIBA BIWAKO E-HARBORの生産状況



エンジニアリング力の強化

自動車産業の開発プロセスに対し ソリューション提供を加速 ESG ESG

- **車両試験システム(SUBARU社)**
 - ・気候変動など実路走行の試験状況を再現できる駆動系システムを提供
 - ・日本・アメリカのHORIBAラボと連携し、顧客の開発プロセス短縮
- **電動車技術共同開発(ケービン社)**
 - ・ホリバMIRA社がBMS(バッテリーマネジメントシステム)を提供し、EVシステム開発を支援



車両試験システム



バッテリーマネジメントシステム

英国ホリバMIRA社に 「MIRA Technology Institute」開校 ESG

英国の産業振興基金と共同出資で設立
→次世代自動車産業の人財育成

- 24,500㎡の敷地に充実した教育施設
- 地元の複数大学による運営(教師招聘)



英国産業振興基金
:LLEP※



(2018年9月開校)

MIRA Technology Institute完成予定図

※<https://www.miratechnologypark.com/>から引用

バッテリー評価試験設備への投資決定

リアルとバーチャルをつなぐ先進評価コンセプトの導入



電動化車両用バッテリー評価試験設備 (HORIBA BIWAKO E-HARBOR)

- バッテリー×パワートレイン & 車両の組み合わせ評価
- 幅広い温度環境試験
→ xEVや燃料電池の評価で活躍
- 2019年7月稼働予定、投資額:約13億円



先進的バッテリー開発試験設備 Advanced Battery Development Suite (ABDS) (ホリバMIRA社)



ホリバMIRA社の
エンジニアリング
能力をグローバル
展開



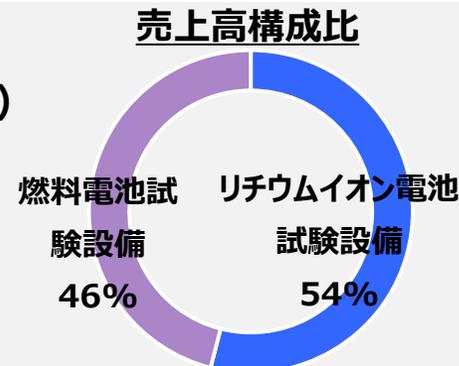
ビジネス領域の拡大に向けて（FuelCon社買収）

FuelCon社の買収



- 電動化車両のバッテリーや燃料電池の試験設備の開発を手掛けるドイツ企業
- 燃料電池に関する多彩な試験設備を所有
- ドイツの自動車メーカーを中心とした納入実績

設立	2001年
売上高	11,504千EUR(2017年度実績)
営業利益	199千EUR(2017年度実績)
従業員数	62名（経営者除く）
所在地	ドイツ東部のマクデブルク（ベルリン西約160km）
主要顧客	Volkswagen、BMW、Audi、Hyundai、Boschなど



HORIBAグループでのビジネス領域の拡大

	電動化車両 (HEV, PHEV, FCEV等)			
	車両	駆動系	エンジン	バッテリー/FC
計測機器 (EMS/MCT)	HORIBA	HORIBA	HORIBA	HORIBA FuelCon
試験手順	HORIBA	HORIBA	HORIBA	HORIBA FuelCon
エンジニアリング (ECT)	MIRA	MIRA		MIRA

FuelCon社の経験・ノウハウを活用して、電動化車両の開発ビジネスを拡大

ビジネス領域の拡大に向けて（UCI支援）

カリフォルニア大学アーバイン校(UCI)新研究所に支援



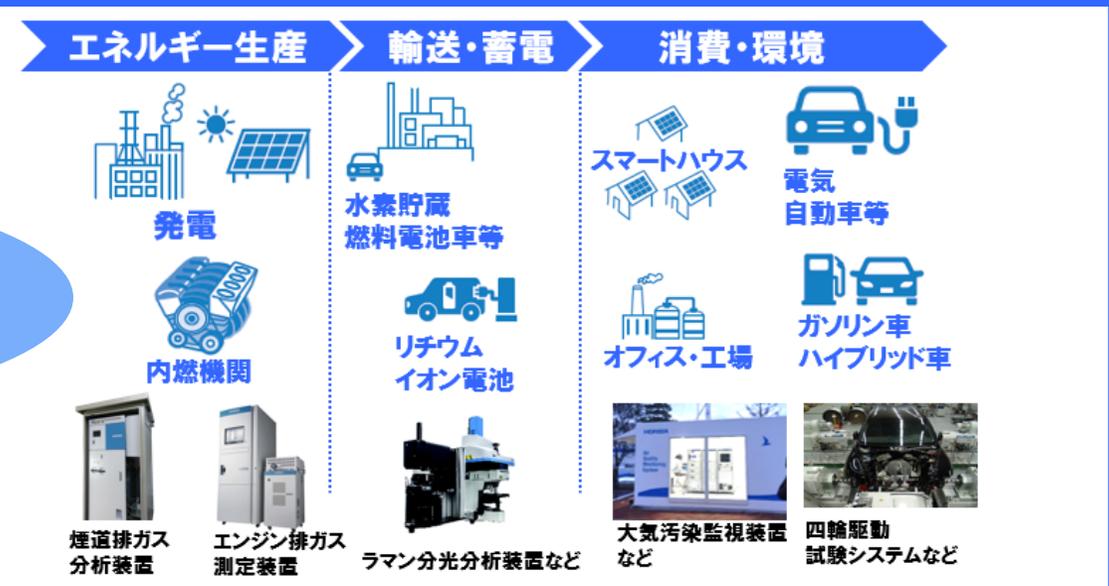
- HORIBAモビリティ・コネクティビティ研究所(HIMAC※1)設立のための支援契約をUCIと締結
- EPA※2など米国規制当局から信頼が厚いUCIのエネルギー分野の研究で、産学連携強化

※1 Horiba Institute for Mobility and Connectivity / ※2 United States Environmental Protection Agency（アメリカ合衆国環境保護庁）

HORIBAグループでのビジネス領域の拡大



変化するエネルギー産業全体でHORIBAの分析・計測技術が貢献



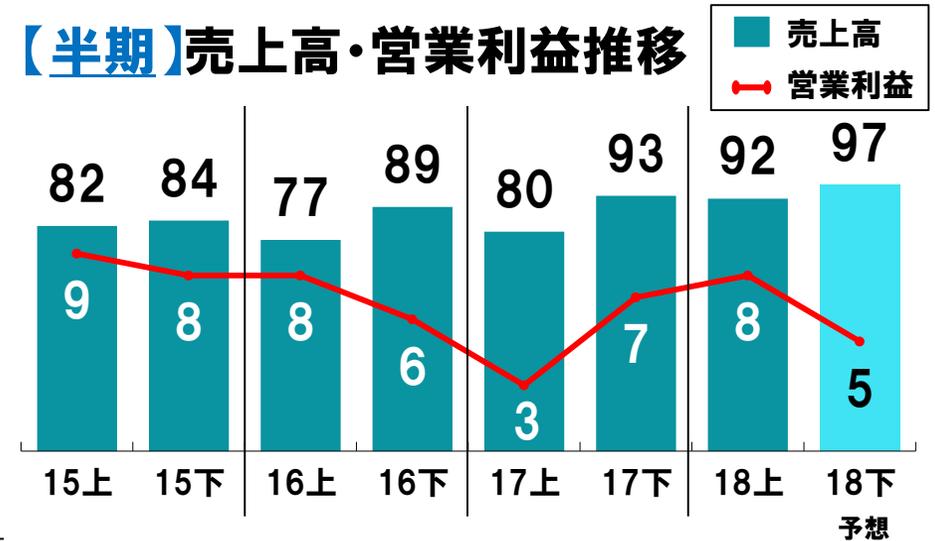
2018年1-9月実績 / 通期予想

(単位:億円)

2018年1-9月実績

- + - 【煙道排ガス】国内需要は横ばいに推移するものの、北米での営業強化により販売増
- + 【大気】環境規制強化で、欧州や新興国で需要拡大
- + 【水質】日本・新興国でのビジネス拡大により販売増

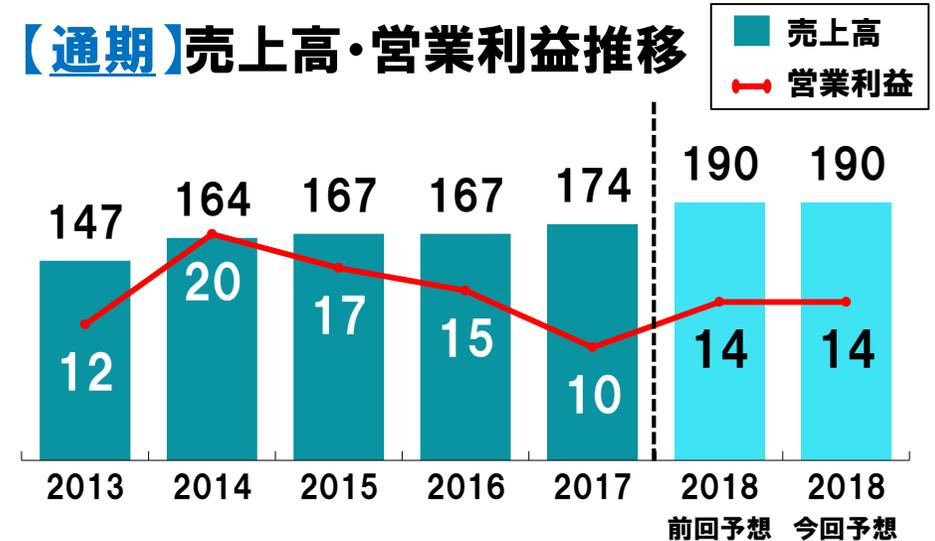
【半期】売上高・営業利益推移



2018年通期予想

- + - 【煙道排ガス】中国VOC規制進展にも期待
- + 【プロセス計測設備】原油価格上昇による投資回復に期待
- + 【水質】国内更新需要の取り込み
新興国でのさらなるビジネス拡大に期待

【通期】売上高・営業利益推移



新規市場への取り組み

★ アジアでのビジネス成長



環境規制・モニタリングビジネスの拡大

- ▶ ベトナムでホーチミン市を含む6つの省・市へ
 - ・大気汚染監視装置(AQMS) 納入 + 継続受注
 - ・水質汚染監視装置(WQMS)

ホリバ・ベトナム社がリード

大気汚染
監視装置ビジネス
連結売上高推移(億円)



※1 AQMS = Air Quality Monitoring Station ※2 WQMS = Water Quality Monitoring Station

● 『はかるEXpress』販売開始



ハードウェア販売ビジネスから クラウドを活用したデータ販売ビジネスへ

- ▶ 自動全窒素・全りん測定装置を設置
 - ① 水質測定レポートを提供
 - ② クラウドを活用・機器状況をモニター

堀場アドバンステクノがリード



堀場アドバンステクノ
代表取締役社長 堀場弾

2018年1-9月実績 / 通期予想

(単位:億円)

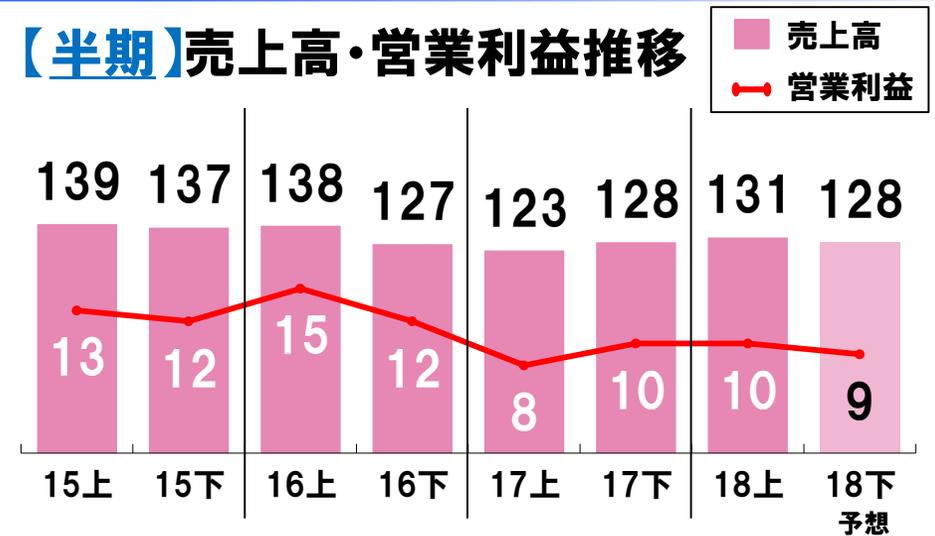
2018年1-9月実績

- + 日本での新製品販売好調
- + 円安による欧州向け円換算額の増加
- + 新興国(中国・インド)でのビジネス拡大

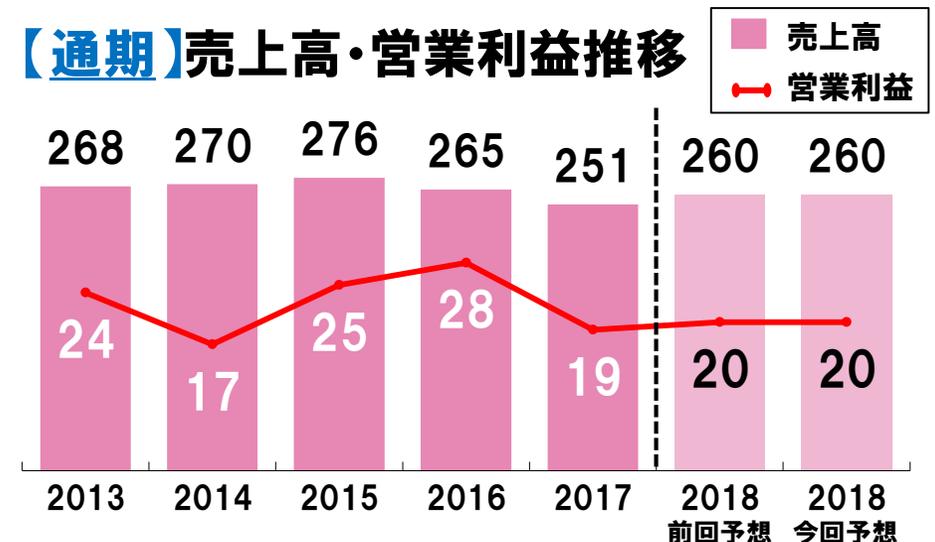
2018年通期予想

- + 日本での血球計数装置の競争激化
- + 高需要な新興国でのビジネスのさらなる拡大
- + 新製品投入による販売促進費用の増加

【半期】売上高・営業利益推移



【通期】売上高・営業利益推移



ビジネス拡大に向けた取り組み

新製品の順次グローバル展開



中大型新製品



「HELO Solution」

フランス、ブラジル、
タイ、イギリスにて
据付完了



ブラジルの事例

白血球5分類+CRP新製品

「Yumizen H630」

日本の開業医向けに販売好調



シーメンスヘルスケア・ディアグノスティクス社業務提携

認証取得に向けて製品調整中

アプリケーションセンター(生化学分野向け) を開設し、米国ビジネスを加速



本稼働:2018年8月

場 所:米国カリフォルニア州アーバイン市

機 能:生化学分野のアプリケーション開発

生化学ビジネス連結売上高:41億円(2017年)



米国で展開予定の生化学分析装置
(日本電子株式会社からOEM供給)

2018年1-9月実績 / 通期予想

(単位:億円)

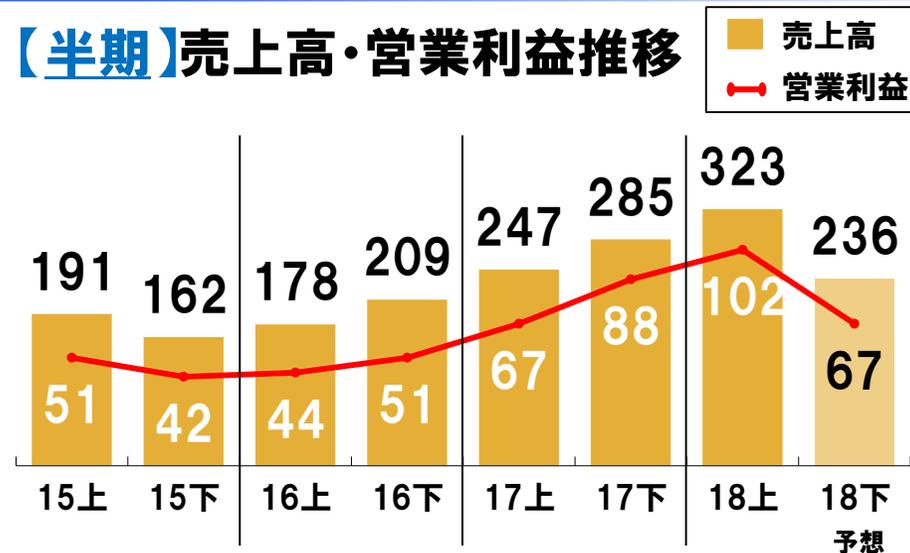
2018年1-9月実績

- + 売上高・営業利益ともに過去最高
- + マスフローコントローラー(MFC)の生産量は過去最高水準
- + 阿蘇工場拡張による供給能力拡大

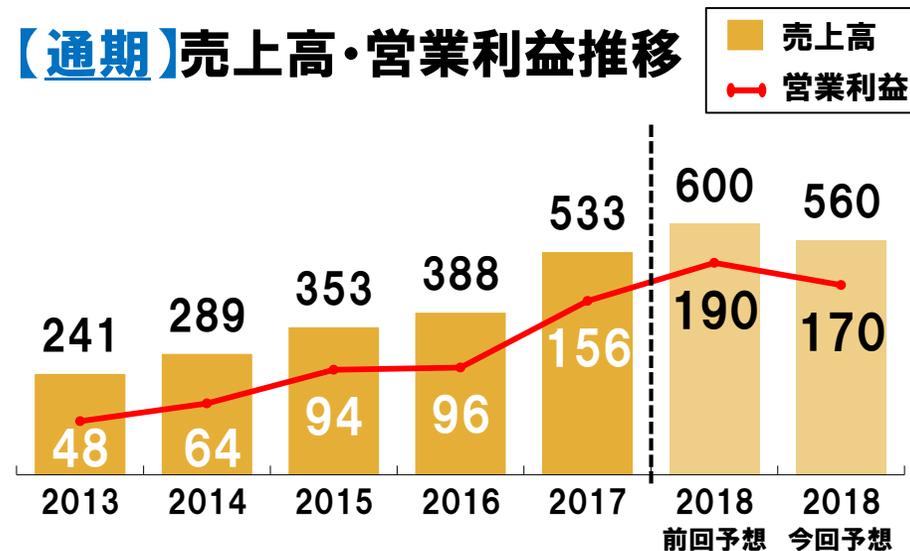
2018年通期予想

- + 足元での半導体メーカー設備投資需要は一服感も、中長期的視点での需要は底堅く、投資回復に期待
- + 国内:阿蘇工場本格稼働により、安定供給体制構築
海外:北米新開発拠点開設で、グローバルR&D体制強化

【半期】売上高・営業利益推移



【通期】売上高・営業利益推移



供給能力強化とグローバルR&D体制の確立

阿蘇工場拡張後の本格稼働



阿蘇・京都合わせて
年間35万台のMFC生産体制構築

生産状況: 2018年3月に過去最高の生産台数
阿蘇工場: 量産MFC生産
京都工場: 最先端MFC開発・生産



堀場エステック
阿蘇工場外観



竣工記念式典の様子
(5月18日)

HORIBA Reno Technology Center 開設



重要エリアの北米開発拠点を強化



グローバルR&D確立へ

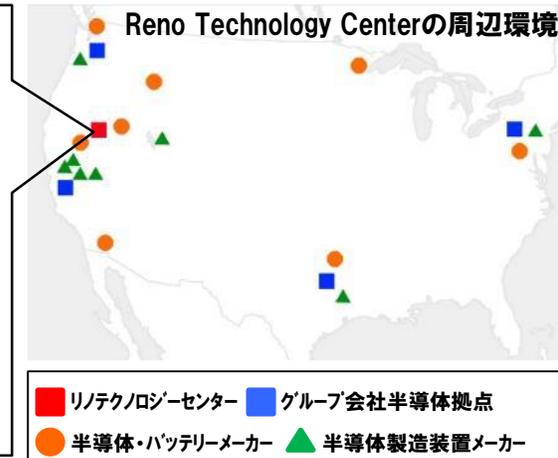


本稼働: 2018年8月 投資額: 約12億円
場 所: 米国ネバダ州リノ市
機 能: 流体計測・制御技術に関する開発



半導体産業集積地域への移転

1. お客様との関係性深化
2. 迅速なニーズの吸い上げ
3. 製品への反映



マスフローコントローラー世界シェアNo.1 (約60%※) を堅持 ※自社調べ(2018年現在)

2018年1-9月実績 / 通期予想

(単位:億円)

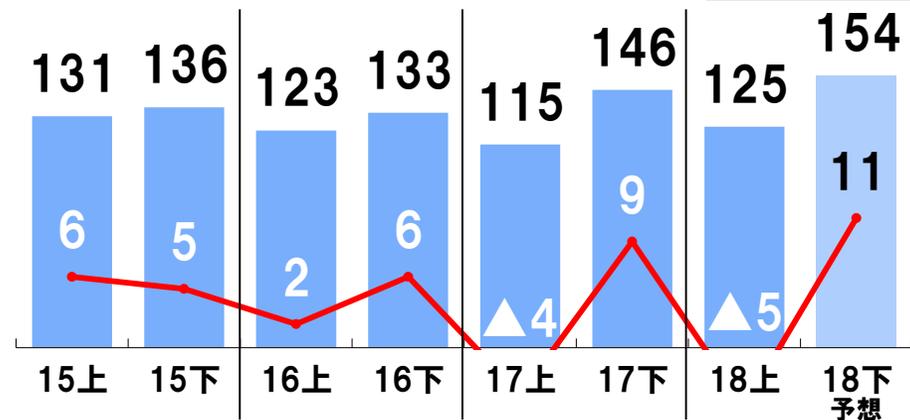
2018年1-9月実績

- + 企業の活発な研究開発投資を背景に日本、米州、欧州で販売増
- 米州で拠点強化に伴う費用が発生

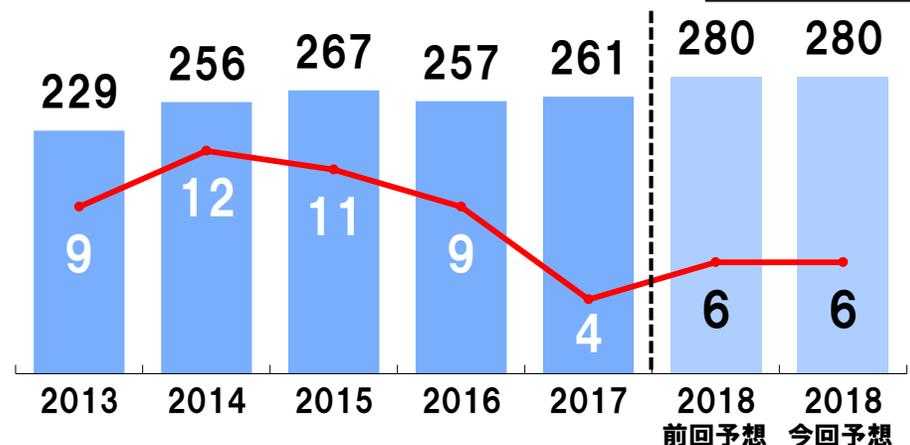
2018年通期予想

- + 引き続き国内での販売は堅調
- + 二次電池向けビジネス拡大に向けた取り組み強化
- 米州での半導体向け分光器の一時的な販売減速リスク

【半期】売上高・営業利益推移



【通期】売上高・営業利益推移



グローバル拠点強化とコアビジネスの拡大

HORIBA New Jersey Optical Spectroscopy Center 開設 ESG

本稼働:2018年8月 **投資額:**約21億円
場 所:米国ニュージャージー州ピスカタウェイ市
機 能:蛍光分光分析装置、分光器等の開発・生産

ライフサイエンス
分野への
ビジネス拡大



蛍光吸光分光装置
「DUETTA」



分光器

半導体向け
需要の拡大



HORIBA New Jersey Optical Spectroscopy Center

ラマン分光分析技術の国際シンポジウム RamanFest 2018を独自開催 ESG

日程:2018年6月25-26日
出席:先端技術の研究者・開発者中心に約100名
概要:HORIBA起案で2013年発足、今回初の日本開催
:大学・企業からの講演(16名)とポスターセッション
→アカデミアと産業を結ぶ場として機能

ラマン分光分析で50年の歴史を持つリーディングカンパニーとして市場をリード、さらなるビジネス拡大をめざす



会場の様子

ラマン分光分析装置
世界シェア:30%*



*自社調べ(2018年現在)

説明内容

- 2018年12月期 1-9月実績
- 2018年12月期 通期 業績予想
- セグメント別詳細説明
- **株主還元**
- その他トピックス
 - 財務データ
 - 会社概要紹介

株主還元政策

基本的な考え方

- 配当金 + 自己株式取得 = 連結純利益 × 30% を目処
- 残りは戦略的投資資金として内部留保(設備投資・M&Aなど)

配当金及び自己株式の取得

2016年実績	85円	[中間	30円、	期末	55円]
2017年実績	116円	[中間	40円、	期末	76円]
2018年予想	120円	[中間	50円、	期末	70円]

11年間の配当金推移(単位:円)

7年連続、過去最高を
更新の予想



説明内容

- 2018年12月期 1-9月実績
- 2018年12月期 通期 業績予想
- セグメント別詳細説明
- 株主還元
- **その他トピックス**
 - 財務データ
 - 会社概要紹介

ESG投資に対するHORIBAの視点

事業を通じた環境・社会への貢献 / オープン&フェアなガバナンス体制の構築

【活動例】



エンジン排ガス測定装置
排ガス規制進展に寄与
健康社会の実現、地球
温暖化防止に貢献



車載型
排ガス測定
システム
「OBS-ONE」

環境関連製品

大気汚染物質、工場
排水のなどの分析による
汚染原因特定により
環境保全・改善に貢献



工業用水質計
「H-1シリーズ」



電動化・自動運転技術開発
安全・快適な社会の実現



「MIRA Technology Institute」

次代を担う人財育成を
通じて産業界発展に貢献



阿蘇工場拡張
地域活性化と継続的な
雇用創出に貢献



多様な経験・スキルを持つ社外取締役
取締役会での活発な議論を通じた
意思決定で戦略の質を高め、
さらなる企業価値の向上を実現



竹内 佐和子
工学・経済学
博士としての
見識と幅広い
国際経験



杉田 正博
金融への深い
造詣と他社
での取締役・
監査役経験



東伏見 慈晃
青蓮院門主
としての卓見と
金融機関での
勤務経験

HORIBA Premium Value運用による資産効率の改善

MCT事業での資産効率改善例

- ◆ シャシダイナモの標準品生産に特化した
オルモウツ工場(チェコ)での改善
- ✓ 生産工程、サプライチェーンをゼロベースで見直し、
プル生産(かんばん方式)の採用

➡ 生産リードタイム 25%削減

新指標展開のためのワークショップ開催

- ◆ グローバル財務責任者とのアクションプラン策定
- ◆ マネージャー向けワークショップ開催

➤ アクションプラン(例)

- 全グループ社員に向けた啓発活動の実施
- 在庫情報共有によるグループ在庫の最適化
- 売掛金回収のための販社=工場間の協力体制構築



オルモウツ工場外観(左)と生産エリアの様子(右)

HORIBA Premium Value

WACCを意識した新経営指標

=

営業利益

-

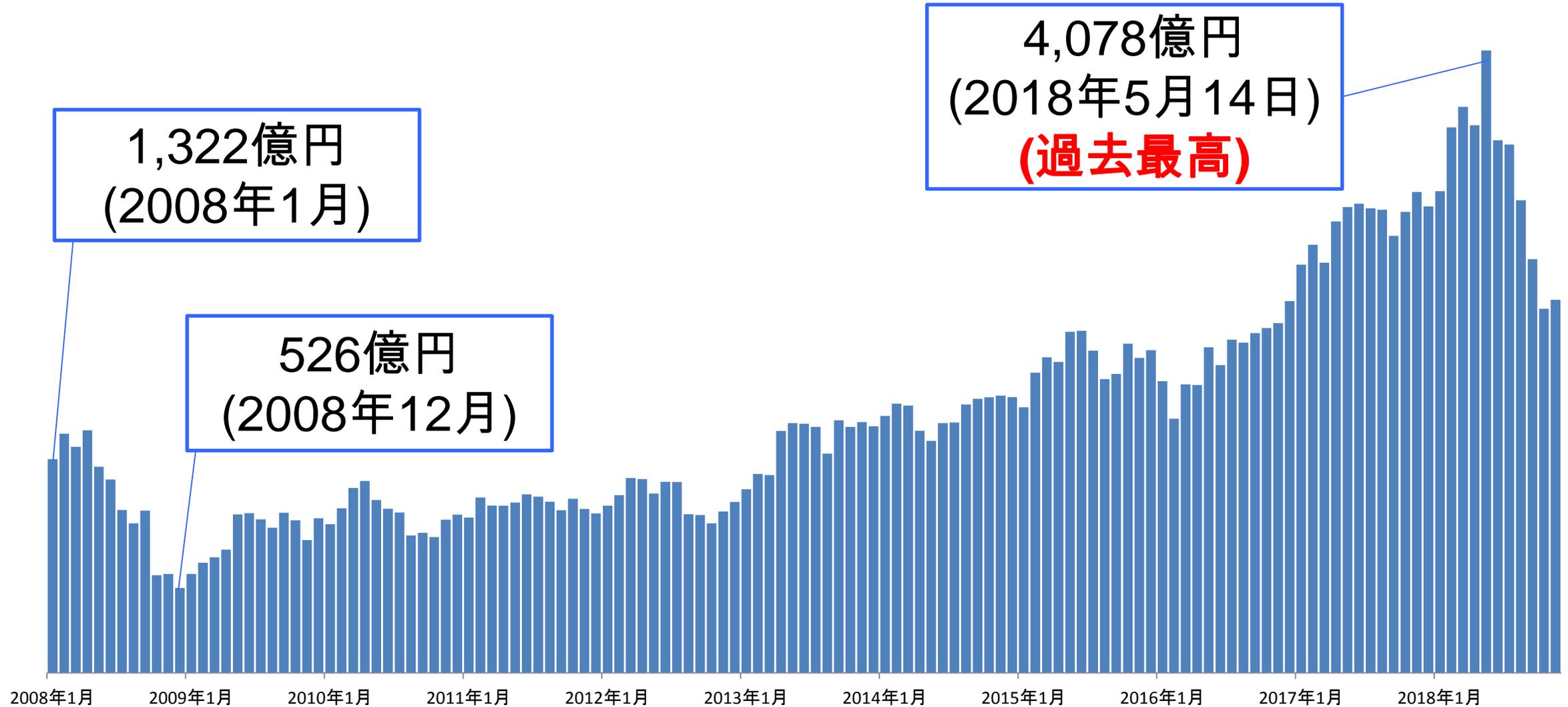
資本コスト

〔 投下資本 × 社内資本コスト率 〕

説明内容

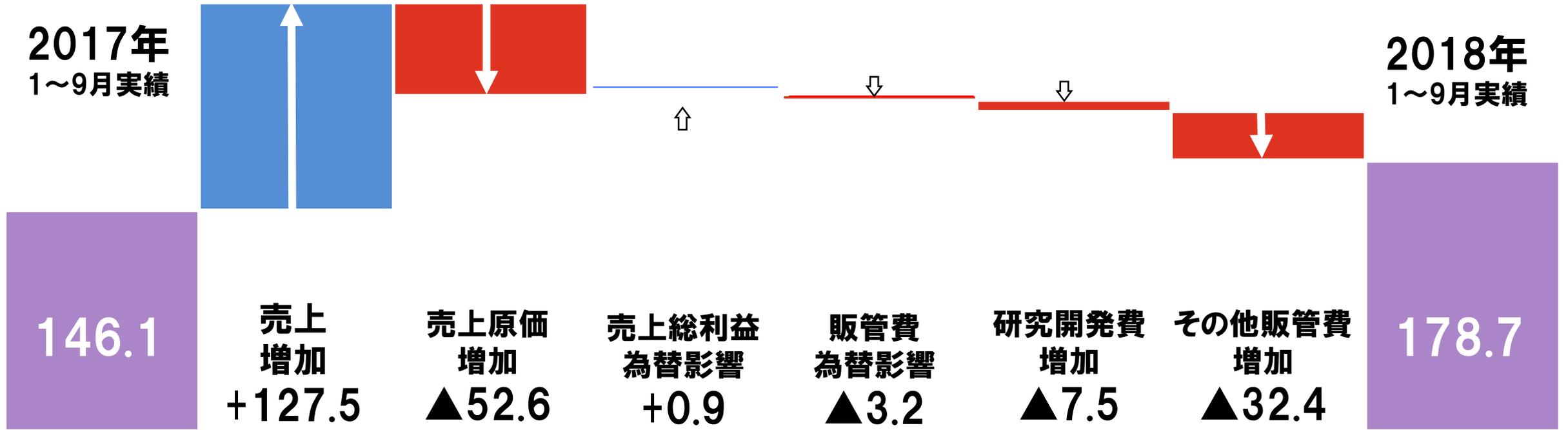
- 2018年12月期 1-9月実績
- 2018年12月期 通期 業績予想
- セグメント別詳細説明
- 株主還元
- その他トピックス
 - 財務データ
 - 会社概要紹介

時価総額推移



営業利益分析(前年同期比較)

(単位:億円)



売上総利益の増加 +74.9 為替影響 ▲2.2 経費の増加 ▲40.0



営業利益増加 +32.6

為替の売上高・営業利益への影響

2018年1-9月 為替影響額(前年同期比)
 売上高 +9.8億円 営業利益 ▲2.2億円

	売上高			営業利益		
	合計	USD	ユーロ	合計	USD	ユーロ
自動車	+6.6	▲ 1.3	+4.8	▲ 0.4	▲ 0.2	▲ 0.0
環境	+0.4	▲ 0.5	+0.6	+0.5	+0.0	+0.3
医用	+2.8	▲ 0.6	+3.7	▲ 1.0	+0.0	▲ 0.6
半導体	▲ 1.7	▲ 3.9	+0.3	▲ 1.4	▲ 3.2	+0.2
科学	+1.6	▲ 1.5	+2.9	+0.1	▲ 0.0	+0.1
合計	+9.8	▲ 7.9	+12.5	▲ 2.2	▲ 3.3	+0.0

※アジア通貨等の影響により、上記2通貨の影響合計が
 全社での影響合計に一致していません

為替感応度(2018年通期予想)
 1円円高による売上高/営業利益の影響額

売上高
 USD ▲4.6億円
 ユーロ ▲3.2億円

営業利益
 USD ▲2.0億円
 ユーロ ▲0.2億円

(円)	2017		2018	
	1-9月平均実績	1-12月平均実績	1-9月平均実績	1-12月予想
USD	111.89	112.16	109.60	110.00
ユーロ	124.58	126.70	130.87	130.00

設備投資額・減価償却費・研究開発費

(単位:億円)

進捗を勘案し下方修正ながら、前年を上回る設備投資額を予想

	2017年	2018年通期予想			2017年	2018年
	通期実績	前回予想 (8/3時点)	前回予想 (11/9時点)	vs 前回予想	1-9月	1-9月
設備投資額	116	160	140	▲ 20	83	74
減価償却費	75	75	75	-	56	52
研究開発費	139	155	155	-	100	109
(対売上高比)	7.1%	7.3%	7.5%	+0.2p	7.6%	7.5%

連結キャッシュフロー

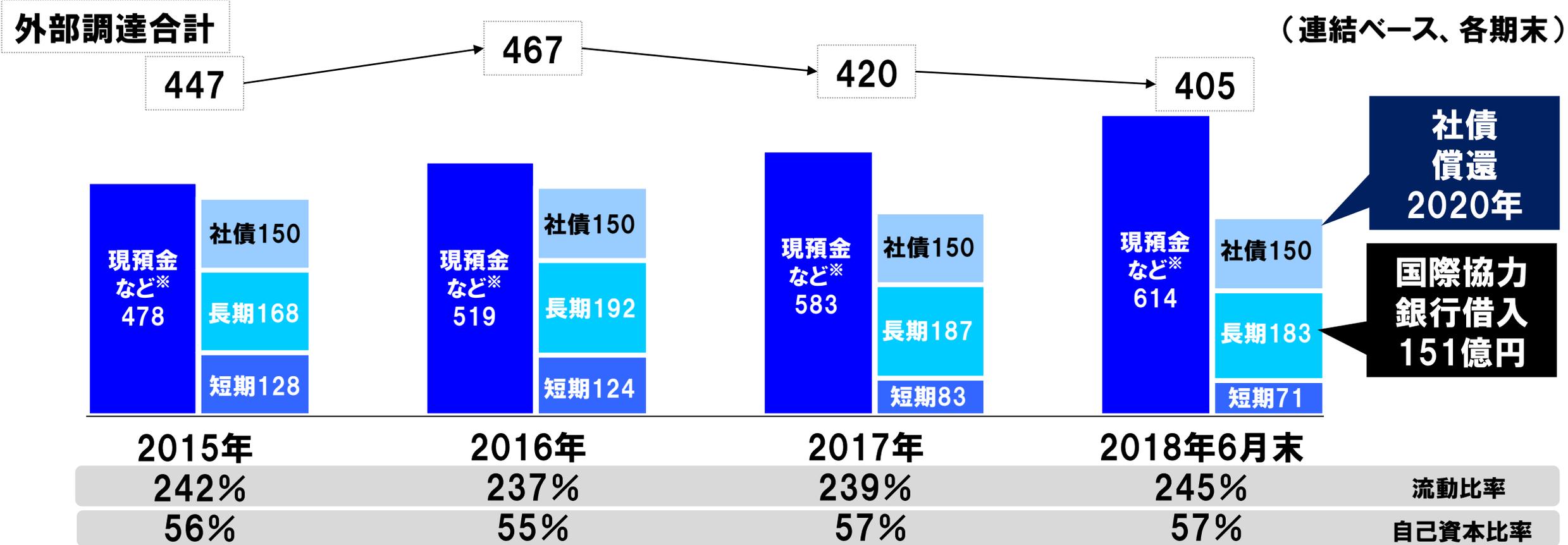
(単位:億円)

	2018年上期	2017年上期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	+124.0	+162.7	▲ 38.6
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 44.3	▲ 68.0	+23.7
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 43.1	▲ 71.0	+27.9
現金及び現金同等物期末残高	614.7	541.7	+72.9
フリー・キャッシュ・フロー	+79.7	+94.7	▲ 14.9

資金の状況

(単位:億円)

(連結ベース、各期末)



**社債償還
2020年**

**国際協力
銀行借入
151億円**

- ・グループ内貸付による外部借入金削減
- ・直近の格付け: R&I「A」(2018年9月)、JCR「A」(2018年8月)

※現預金など…現金及び現金同等物の期末残高

説明内容

- 2018年12月期 1-9月実績
- 2018年12月期 通期 業績予想
- セグメント別詳細説明
- 株主還元
- その他トピックス
 - 財務データ
 - **会社概要紹介**

会社概要

- 本社 京都市
- 創業 1945年
- 設立 1953年
- 決算日 12月31日

堀場 厚

代表取締役会長兼グループCEO



- 社是 -

Omoshiro-okashiku
Joy and Fun



人生のもっとも活動的な時期を費やす仕事に
 プライドとチャレンジマインドを持ち、エキサイティング
 に取り組むことによって人生の満足度を高め、
 よりおもしろおかしく過ごせる。

事業セグメント

自動車計測システム機器



- ・エンジン排ガス計測システム
- ・自動車試験システム
- ・自動車テレマティクス
- ・車両開発エンジニアリング(ホリバMIRA社)

環境・プロセスシステム機器



- ・大気測定、排ガス測定、水質測定機器
- ・環境放射線測定器、放射温度計
- ・環境規制市場とプロセス市場に対応

医用システム機器



- ・充実の体外診断用検査システム
- ・ホリバABX社の技術とマーケティングノウハウ

半導体システム機器



- ・マスフローコントローラー
- ・薬液濃度モニター
- ・堀場製作所、堀場エステック社、堀場アドバンスドテクノ、ホリバ・フランス社の技術連携

科学システム機器



- ・500種類を超える理化学分析装置
- ・自動車、エネルギー、バイオリフサイエンスなど最先端科学技術分野における新素材・材料開発に貢献
- ・光計測コア技術を他セグメント製品と融合させ、新たな分析装置の開発へ応用展開

事業セグメント

自動車計測システム機器



環境・プロセスシステム機器



医用システム機器



半導体システム機器

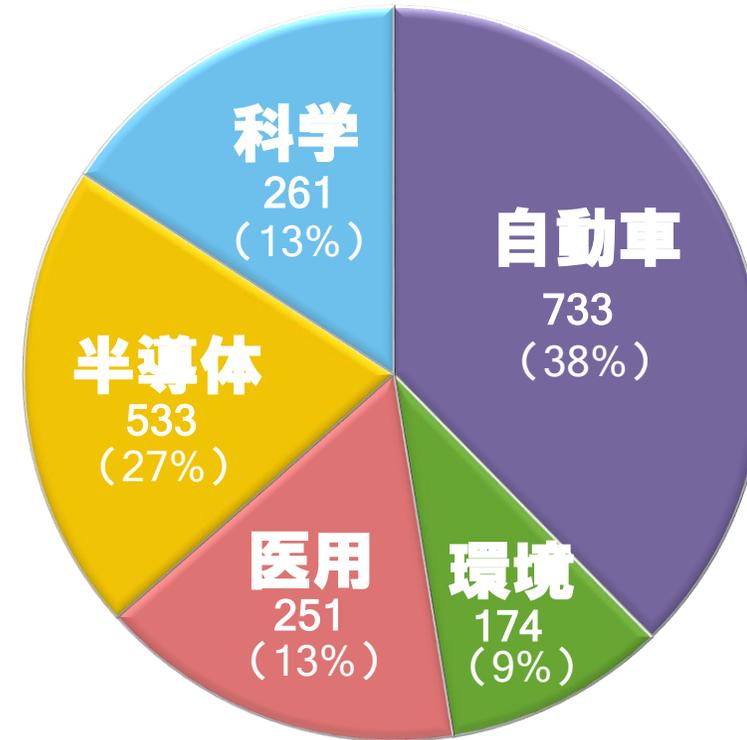


科学システム機器



売上高 1,953 億円

()=売上高構成比率



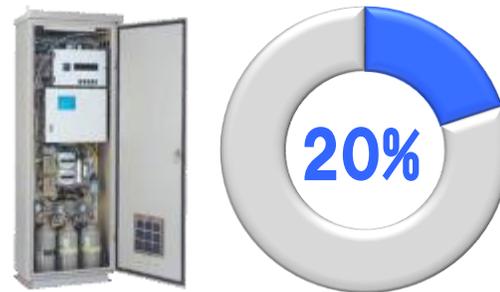
事業セグメント別売上高(億円)
2017年度

世界市場シェア

エンジン排ガス計測システム



煙道排ガス分析装置

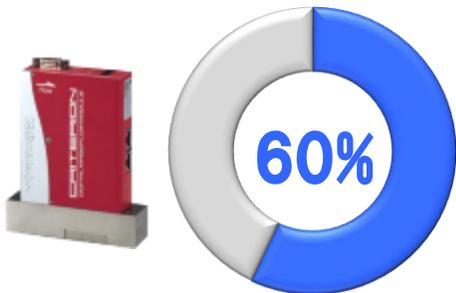


血球計数CRP計測装置



※2015年末調査時点 日本国内シェア

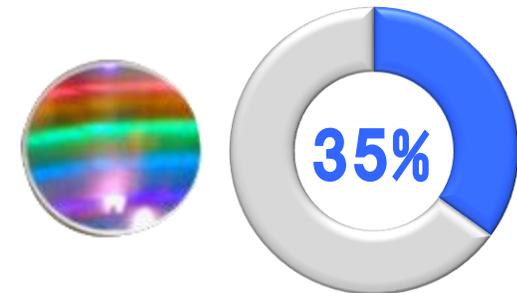
マスフローコントローラー



ラマン分光測定装置



グレーティング



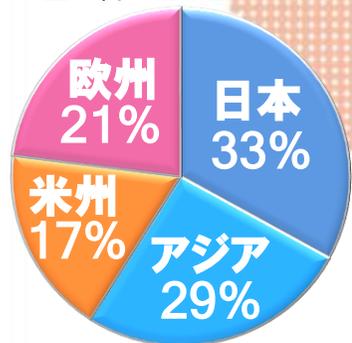
※各製品のマーケットシェアは当社推定値

グローバルネットワーク売上高

(2017年度)
売上高:1,953億円



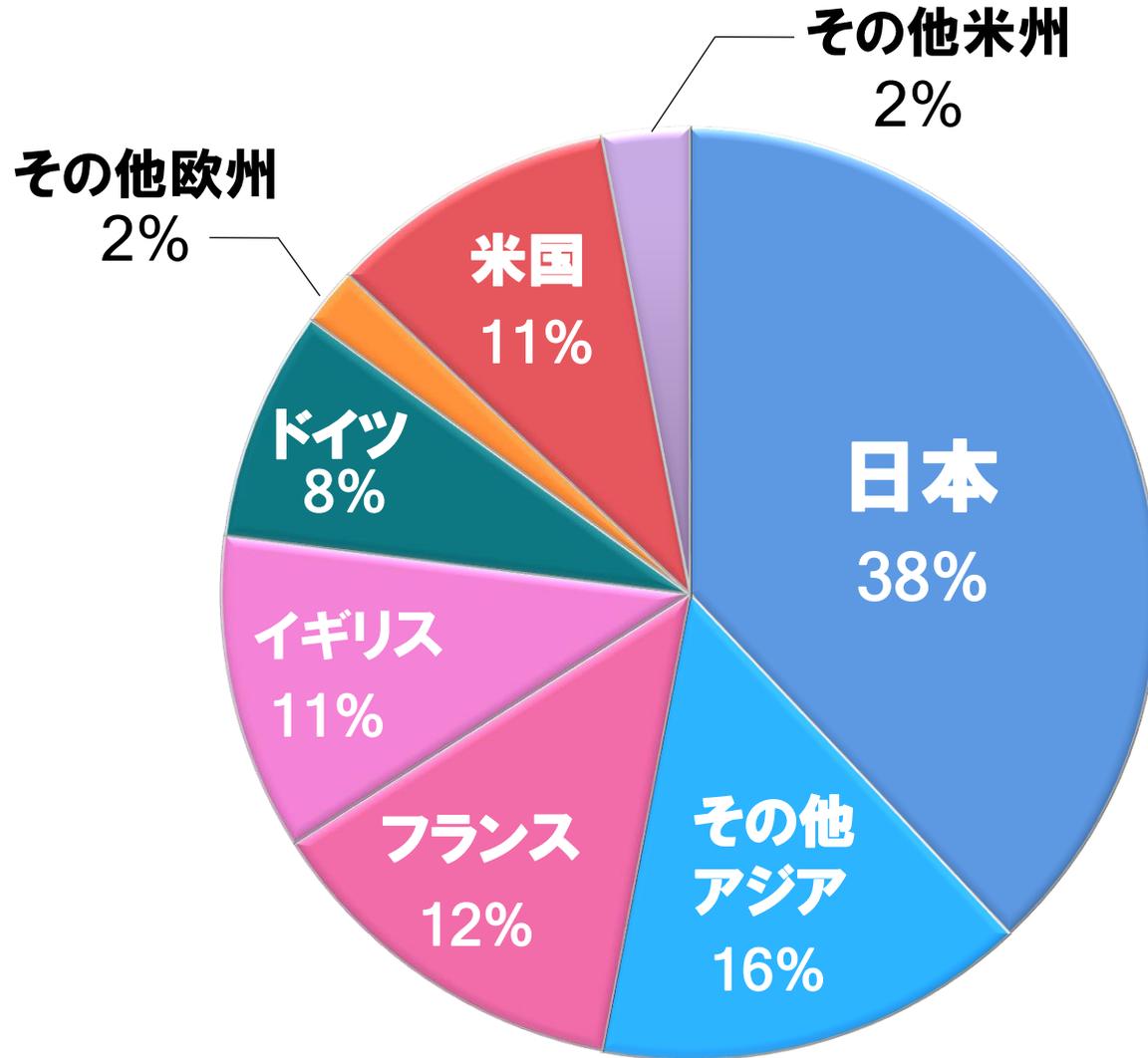
2017年地域別売上高比率



地域別グループ会社数 (2017年12月31日)

米州	9
欧州	22
アジア	17 * 日本4社(堀場製作所含む)
計	48

地域別従業員比



従業員数 2017年12月31日現在
7,399名
アジア:4,041名
54%
欧州:2,414名
33%
米州:944名
13%

ご清聴ありがとうございました。